

建設環境委員会行政視察報告書（平成 27 年 10 月 5 日）

日 時：平成 27 年 10 月 5 日
視 察 先：石川県金沢市
視察事項：『自転車の安全な利用の促進に関する条例の具体化について』 『自転車を活用したまちづくりについて』
内 容 <p>都市政策局交通政策部歩ける環境推進課より、市の取り組みに関する説明がなされた。金沢市では、「自転車利用向上計画」を策定し、「はしる」「とめる」「つかう」「まもる」の 4 本柱を掲げて、それぞれの施策を推進している。</p> <p>「はしる」においては、自転車走行空間の整備を中心に行い、路側線やマークの掲示などの取り組みを行っている。特に、自転車ネットワーク協議会を設立する際に、地元警察の参加をみるなど、各機関との連携強化に努めている。</p> <p>「とめる」においては、駐輪環境整備を中心に行い、既存市営駐輪場の利用促進を図るとともに、中心市街地に駐輪スペースを増設するよう施策を進めている。路上駐輪解消実験も行うなどしつつ、駐輪場の適正配置やマナー啓発等の今後の課題へ対応を行っている。</p> <p>「つかう」においては、自転車利用促進を図る施策の一環として公共レンタサイクル「まちなり」の事業をスタートさせている。観光客を中心に、利便性・回遊性に寄与する施策の展開を図っている。</p> <p>「まもる」においては、地域・市民団体・学校・行政等の協働により子どもから大人までの自転車利用者に対する意識啓発活動を実施することを主眼としている。ユニークな取り組みとして、自転車ルール・マナーに関する検定を市内中学校や一部の私立中学校、市立高校等で行っている。</p> <p>条例の具現化策においては、計画に盛り込まれた事業を中心としてマナー向上や歩行者優先マーク設置による安全確保策などを行い、全交通事故件数に占める自転車関係事故件数の割合を減少させるなどの効果が出ている。</p> <p>総括として、「自転車を公共交通と組み合わせた都市交通の一つとして再認識し、金沢のまちの特性に応じた市民・来街者の身近で安全な移動手段として利用できる環境を整える」ことが、「豊かで住みよい都市環境の形成につながり、交流を通じて新たな価値を創造し、持続的な発展を続ける『世界の“交流拠点都市”』へ」とまちを発展させることを強調していた。</p>
視察を終えて <p>金沢市においては、地理的特性や県の中心としての役割、観光行政など、市の特徴を把握したうえで、施策を展開されていることが実感された。</p> <p>また、ユニークな取り組みとして当委員会委員の注目を引いたのは、ルール・マナーの啓発活動の一環として、教育現場で検定や警察との連携強化に努めている点などであった。所管事務調査に資する視点を多く提供していただいた視察となった。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。

建設環境委員会行政視察報告書（平成 27 年 10 月 6 日）

日 時：平成 27 年 10 月 6 日
視 察 先：福井県勝山市
視察事項：『エコミュージアム推進とわがまち魅力醸成事業について（環境とまちづくりと産業振興の取り組み）』
<p>内 容</p> <p>福井県立恐竜博物館のある勝山市は、平成 12 年の「恐竜エキスポ」以後のまちづくり機運の向上が見られた。それを受け、平成 12 年 12 月に山岸市長が「ふるさとルネッサンス」を提唱し、その実現に向け地域全体を一つの博物館としてまちづくりを考える「エコミュージアム」の手法を取り入れ、新しい価値観による豊かさを実現することを目指し事業を開始した。</p> <p>翌平成 13 年から、市民向けの講座を開催し意識啓発を進めるとともに推進計画の策定に向け協議会を設立。平成 14 年 10 月に「エコミュージアム推進計画」が策定された。その基本理念は①遺産の発掘と保存活用②地域への愛着と誇り③新しい価値観による魅力発見④活気ある元気なまちづくりと地域経済の発展、である。</p> <p>この計画のもと、市民自らが主体的に参加して特色ある地域づくりを進めるため、エコミュージアムの基幹事業として推進されたのが「わがまちげんき」の名を冠した各事業である。</p> <p>これは、「わがまちげんき発掘事業」「わがまちげんき創造事業」「わがまちげんき発展事業」と 3 年ごとに展開されたのち、「わがまち魅力醸成事業」「わがまち魅力発酵事業」へと展開している。これらの事業は、当初一律定額補助型の事業として、市民参画の拡大と住民運動の活性化が図られ、その後、企画提案型事業へと発展していった。一律定額補助時代は、住民のアイディアとやる気を重視して事業展開をし、企画提案型時代には、各団体の事業を相互に厳しく精査することで事業の質を上げていく展開をしたと捉えられる。こうした取り組みから、地域における環境保護・コミュニティビジネス・地域文化保存など 13 年間で 272 の事業が行われた。</p> <p>そして、現在は平成 21 年に日本ジオパークに認定されたことを受け、エコミュージアムからジオパークへと事業理念が発展をし、市民の主体的まちづくり活動を継続し、そのうえで手法の呼称を「ジオパークまちづくり」に一本化している。</p>
<p>視察を終えて</p> <p>地域ごとの特性を生かして事業展開をしている様がよく理解できた。と同時に、行政のトップである市長の強力なリーダーシップのもとに、これらの事業が展開されていることが実感された。また、市民協働で行う事業における当初の補助金の出し方や、事業を市民相互に精査する仕組みなどは、当委員会の委員の注目を集めたところである。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。

建設環境委員会行政視察報告書（平成 27 年 10 月 7 日）

日 時：平成 27 年 10 月 7 日
視 察 先：富山県富山市
視察事項：『自転車利用環境整備計画について』 『自転車市民共同利用システムについて』 『選ばれるまちづくり事業について』
内 容 <p>自転車利用に関する視察について、まずは「自転車利用環境整備計画」の説明がなされた。</p> <p>これは金沢市と同様に 4 本柱の取り組みが掲げられたものである。「はしる」（自転車走行空間整備）「とめる」（駐輪環境整備）「いかす」（自転車利用促進）「まもる」（ルール遵守・マナー向上）がそれである。</p> <p>「はしる」においては、都心地域・五福地域における自転車ネットワークの形成を主眼とし、車道上及び歩道上の走行空間の整備と交通安全対策、自転車マークの設置などの対策が行われている。</p> <p>「とめる」においては、既存駐輪場の適正利用を推進するとともに、新たな駐輪場の整備にも取り組み、北陸新幹線開通に伴う富山駅周辺の開発と合わせた整備や、路上駐輪が目立つ箇所でも小規模駐輪場の整備を推進していく方針である。</p> <p>「いかす」においては、自転車利用促進へ向けた情報発信を充実させ、また市内の魅力伝える自転車サイクリングのモデルコースの紹介なども行っている。またレンタサイクル事業の展開もここに含まれる。</p> <p>「まもる」においては、自転車利用に関するルール・マナーの意識啓発について、広告媒体活用・歩行者やドライバーへの啓発・教育機関での啓発強化・安全点検の徹底などの施策が展開されている。今後は市の将来像を構成する「人」「まち」「自然」と自転車とつなぐ施策展開を念頭に、種々の事業へ取り組んでいくとのことであった。</p> <p>「自転車市民共同利用システム」は、海外の都市で実績を持つ民間会社が主体で、富山市は行政関連のサポートに徹している。</p> <p>「選ばれるまちづくりについて」は、質の高いライフスタイルを市民が「実感」できる都市をめざし、シティプロモーションからシビックプライドへとコンセプトを発展させている。魅力的な都市像を発信（シティプロモーション）することで市内外から“選ばれるまち”を目指し取り組みを開始。ヴァリエーション豊かな事業展開がされてきている。</p>
視察を終えて <p>勝山市同様、市の特徴を生かし、市長の強力なリーダーシップのもとで事業展開がされていると実感した。施策推進における自治体の地理的・社会的・経済的実情の精確な把握と、リーダーの指導力、市民の意識醸成などの重要性を再確認した視察であった。</p>

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。